

# 成果報告書 概要

2011 年度助成 (実践期間：2012 年4月 1 日～2013 年 12 月 31 日)

<b>タイトル</b>	環境との共生をめざす教育課程 ～地域のもの・こと・ひとに進んで関わる活動構成を中心に～		
<b>所属機関</b>	志免町立志免東小学校	<b>役職 代表者 連絡先</b>	学校長 田熊 裕子 092-935-6100

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	創立40周年スクールガーデン計画	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
中学生	3年「土管山をもとの安全な遊び場にしよう」	
教員	5年「学校の樹木に名札をつけよう」	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
その他	6年「40周年卒業記念ストリートをつくろう」	ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
		○ その他



<b>実践の目的：</b>	子ども達に身近な地域に目をむけさせ、これらを対象とした教材を開発し、子ども達が進んで関わっていきける活動構成を工夫していく。
<b>実践の内容：</b>	理科・社会科・総合的な学習の時間を関連づけて、子ども達がすむ志免町の「ひと・もの・こと」のよさに気づき、そこからでた課題意識をもって、創立40周年スクールガーデン計画に取り組みさせた。 A 3年生 「土管山をもとの安全な遊び場にしよう」 活動：左上の画像 B 5年生 「学校の樹木に名前をつけよう」 活動：右上の画像
<b>実践の成果：</b>	理科・社会・総合的な学習の時間で、地域の自然を中心に調べ活動や育成活動をする中で、課題意識をもたせて、創立40周年スクールガーデン計画に取り組みさせることで、子ども達は環境を大切にすることや、環境は自分達で守っていくものであるという意識がでてきた。
<b>成果として特に強調できる点：</b>	自分達のまわりには、誇りある多くの「ひと・こと・もの」があることに気づかせた。環境を守るのは、人任せではなく、自分達にもできることがあるという理解を深めさせた。

# 成果報告書

2011 年度助成	所属機関	福岡県糟屋郡志免町立志免東小学校
タイトル	環境との共生をめざす教育課程 ～地域のもの・こと・ひとに進んで関わる活動構成を中心に～	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

○本校児童は、明るく素直で、外遊びが好きな子が多い。地域での生活も共に過ごす時間が長く、子ども同士の結びつきも強い。しかし自ら進んで学んだり、自ら問題を解決したりなど主体的な関わり方があまり身につけていない。また全国学力・学習状況調査結果から、地域行事や地域のよさに関する興味・関心が薄いこともみえてきた。

○上の状況から、子ども達に身近な地域に目をむけさせ、これらを対象にした教材を開発し、子ども達が進んで関わっていける活動構成を工夫していくことが重要である

○このことは、自分達が住む志免町の「ひと・もの・こと」のよさに気づき、志免町に愛着をもつことにつながる。さらにカリキュラムを計画的に構築することで、ふるさとに誇りをもつ子どもを育てることにつながる。これらの姿はひいては郷土を、そして祖国を大切に思う心情へと深まり広がっていく。

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

(購入機器・材料)

【1年次】デジタルカメラ(10台)・プリンター(3台)・双眼鏡(10台)・発表ボード

【2年次】まさ土・ウッドチップ・樹木名札作成用絵の具および筆・スコップ・鍬

(協力機関)

【1年次】志免町シーメイト・交通ボランティア・JA粕屋

【2年次】福岡県樹芸組合連合会・福岡県の緑を考える会・志免町教育委員会

志免東小スクールガーデンづくり実行委員会(町内会長・民生委員等)

### 3. 実践の内容

	3年生	5年生	6年生
1 年 次 の 実 践	<p><b>社会「わたしの町・みんなの町」</b> 町にある施設の探検を通して、自分達が住んでいる町に興味関心をもつ。</p> <p><b>総合「校区安全マップをつくらう」</b> 地域の人々と協力して、自分達の通学路の危険箇所マップを作成し、安全な歩き方について全校こしらせるとともに、地域や町に改善してほしい内容を発信する。</p>	<p><b>社会「わたしたちの生活と食料生産」</b> 食料生産には、自然と深いゆかりがあることを理解する。</p> <p><b>理科「生命のつながり」</b> いろいろな命は自然をはじめ、様々な環境が景観合っていることを理解する</p> <p><b>総合「わたしたちで志免東米をつくらう」</b> ペットボトルを使っての米作りを通して生命を育てることの難しさや環境と共生していくことの大切さを理解する。</p>	<p><b>総合「ぼくたちわたしたちの卒業プロジェクト」</b> 5年生総合的な学習「志免町環境調査隊」で宇美川を中心に様々な環境を調べ、自然の大切さ(共生していくこと)を学ぶとともに、志免東小校区にはあまり自然環境がないことを感じていった。</p>
こ ど も の 課 題 意 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区には自然が少ないな。</li> <li>・校内には危険な場所がないかな。</li> <li>・みんなが安全に遊べる場所をふやしたいな。</li> <li>・自分達でできない事は地域やお家の力を借りて実現したいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物を育てることは難しい。</li> <li>・自然環境のしくみやもっと植物のことを知らないと言育てることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業プロジェクトとして、ぼくたちわたしたちの思いを未来につなぐ実践を考えたい。</li> <li>・40周年スクールガーデンづくり事業の中に自然環境を再生したいという私たちの願いを実現して未来につなげよう</li> </ul>
創 立 四 十 周 年 ス ク ー ル ガ ー デ ン 計 画	<p><b>「校庭の土管山をもとの安全な遊び場にしよう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土管お遊び場だけど、危ない場所</li> <li>・土管山を安全な遊び場にもどそう。(活動内容)</li> <li>・土管山づくり</li> <li>・土だけでは山が流れてしまうので保護者や地域の人の力をかりて、ヒメイワダレンウを植えよう。</li> </ul>	<p><b>「学校の樹木に名札をつけよう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40周年スクールガーデン計画で植えた新しい樹木を大切に育てるには、その樹木の名前やその特徴を知ることが大切だ。</li> <li>(活動内容)</li> <li>・植樹活動で植えた樹木の名札をつくる。</li> <li>・自分達が書いた名前の樹木がどこにあるかを、名前のイメージなどをもとに予想する。</li> <li>・GTの説明をもとに、樹木と名札のマッチング作業をおこなう。</li> </ul>	<p><b>「40周年卒業記念ストリートをつくらう」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデンスクールの一画に、40回卒業生として、これまで学んできた自然にやさしい環境を記念としてつくりあげたい。(活動内容)</li> <li>・正門近くの桜並木を、四季を楽しめる小径として再生する。</li> <li>・雨水を吸い込みこちよいものにするために、ウッドチップの敷き詰めを考えていく。</li> </ul>

#### 4. 実践の成果と成果の測定方法

1、身の回りの自然現象に興味をもち、自分の住んでいる志免町のよさについて進んで調べたり観察したりすることができる。

(3年生) 総合施設「シーメイト」を中心に持ち上げ調べ学習を行ったことで、それ以外の施設に対しても関心をもち、特に町立図書館・スポーツ公園などの利用が増えてきて、町のよさをみつけていこう。町の施設を利用しようとする傾向がでてきた。・・・学習後アンケートから

(5年生) 宇美川の環境調査を実施することにより、校区を流れている川が、見た目より汚れていることに気づき、それを少しでも改善していこうという思いのもと、さまざまな調査や観察を進んでする態度がみえてきた。また川の汚れ等を調べるだけでなく、川をきれいにしようとする取り組み活動(クリーンアップ作戦)に参加する子どももでてきた。・・・子どもの観察態度や調査ノートから

2、自ら課題をもち解決方法を考え、友達のことを取り入れながら自分の意見をまとめ、課題解決することができる。

- ・課題設定のための現地調査の活動をすることで「なぜシーメイトには〇〇な施設をいれているのか」「宇美川にたくさんのゴミがすてられる原因はなにか」など、個々に具体的な課題を設定することができた。

- ・調べたことをまとめる学習過程で、グループ交流→全体交流の方法を行い、全ての子が意見をだすことができる方法を取り、その中で自分の意見を付加修正していった。また発表の方法もそのグループに応じた方法で発表させた。(模造紙新聞・紙芝居・簡単なプレゼン) このような実践を通して、子ども達は課題に対しての自分の考えをもつことができた。



「創立40周年記念スクールガーデン計画」の活動

スクールガーデン作りの、学校の環境作りを通して、環境は自分達でつくっていくものであり、環境を守っていくのも自分達の責任であることに気づくことができる。

(3年)「土管山をもとの安全な遊び場にしよう」

(5年)「スクールガーデンの樹木に名札をつけよう」

(6年)「創立40周年卒業記念ストリートをつくろう」

- ・本校ビオトープとの関連を図り、自然にふれあう機会が多くなり、自然に対する興味・関心が高まってきた。・・・学習・生活アンケートから
- ・学校の外にも目を向け、隣接する社会体育館や町交番の落ち葉掃除に出かけるなど、地域貢献への意識も芽生えてきた。
- ・本校の教育活動が地域との双方向性や、未来への持続性を持てるように、学校内外の人材をつないだ活動組織を設置した。このことによって、創立50周年を創造した未来につながることができ、今後の活動に活かされてきた。

## 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

(3年生)

- ・他の危険な場所も工夫して安全な場所として再生できないかを調査し、地域の方や保護者の協力を得ながら場所づくりをする。
- ・作った「土管山」をこわれないように、見守っていく方法を考えていく。

(5年生)

- ・児童や地域の人たちがスクールガーデンに親しみをもって大切にしてもらうために「志免東小 樹木図鑑」を作成する。

(6年)

- ・作り上げた卒業記念ストリートを見守っていく計画をたてる。
- ・創立50周年に開封するタイムカプセルの設置計画をたて、実施する。

## 6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

- ① 東小フェスタの学習発表会での学年発表(3年生)
- ② 学習参観での活動発表(5・6年)
- ③ 学校通信・学年通信等での地域、保護者への発信
- ④ 西日本新聞(2013年11月15日) TNC ニュースで、ビオトープを中心とした環境教育の取り組みが紹介された。
- ⑤ 日本生態系協会より環境教育の実践において、協会賞を受賞した。

## 7. 所感

- ・2年間の活動を通して、学校のまわりには、子ども達の活動に有意義な多くの「ひと・もの・こと」の素材があることを改めて認識することができるとともに、その素材を教材にしていく工夫の難しさを感じた。しかし開発した教材に、子ども達が興味・関心をもって取り組む姿に、地域教材のよさを再認識した。
- ・2年次の本年、財団からの助成のおかげで、子ども主体の創立40周年記念スクールガーデン計画を実行できた。
- ・環境との共生を考え実践したことは、子ども達にとっても生涯思い出に残る体験になったと思う。ご助成本当にありがとうございました。